

エコアクション21

環境活動レポート

2015. 5. 21~2016. 5. 20

2016年6月20日作成

株式会社 鹿 熊 組

目 次

1. 環境方針
2. 事業内容
 - 1) 事業所名及び代表者名
 - 2) 所在地
 - 3) 環境管理責任者及び担当者
 - 4) 事業内容
 - 5) 事業規模
3. 活動組織
4. 環境目標
5. 環境活動の取組結果と評価
 - 1) 環境活動の取組結果
 - 2) 環境活動の取組結果の評価
6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無
7. 代表者の評価と見直し

1. 環境方針

【環境に対する基本理念】

当社の経営姿勢は常に堅実性に重点をおき、誠実・情熱・技術の三本の柱で様々なお客様のご要望にお応えすることをめざしてまいりました。

当社が長年にわたり蓄積してきた技術力を活かし、三本の柱の元で、環境負荷の発生を可能な限り軽減して、自然環境の維持・改善・向上・保護を目的とした持続的活動を行うことにより人類共通の課題である環境問題に取り組んでまいります。

【環境方針】

- ① 省エネルギーに努めて、温室効果ガスの発生を可能な限り抑制いたします。
- ② 当社の事業活動に伴い発生する産業廃棄物及び建設副産物の発生抑制・削減・リサイクルに取り組めます。
- ③ 環境に配慮した製品・サービスの提供に努めます。
- ④ 事務用品のグリーン購入への取り組みを行います。
- ⑤ 節水に心がけ水資源の有効活用を行います。
- ⑥ 環境関係法規制を遵守します。

これらについて環境目標・活動計画を定め、全従業員に周知し実行します。
定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めてまいります。

2011年4月20日

長野県長野市大字鶴賀緑町
1631番地3号

株式会社 鹿熊組

代表取締役社長 鹿熊 厚

2. 事業内容

1) 事業所名及び代表者名

株式会社 鹿熊組
代表取締役社長 鹿熊 厚

2) 所在地

本 社 長野県長野市大字鶴賀緑町1631番地3号
機材センター 長野県長野市真島町川合北宮島2036番地

3) 環境管理責任者及び担当者

環境管理責任者 専務 鹿熊 聡

環境管理担当者 管理部 鹿熊 聡
土木部 大谷章彦
建築部 神田知徳

環境管理事務局 新井重隆

連絡先 TEL 026-235-3311
FAX 026-235-3315
HP <http://www.kakumagumi.com>
E-mail info@kakumagumi.com

4) 事業内容

総合建設業 許可番号 長野県知事 許可(特-26)第22710号

建設業の種類

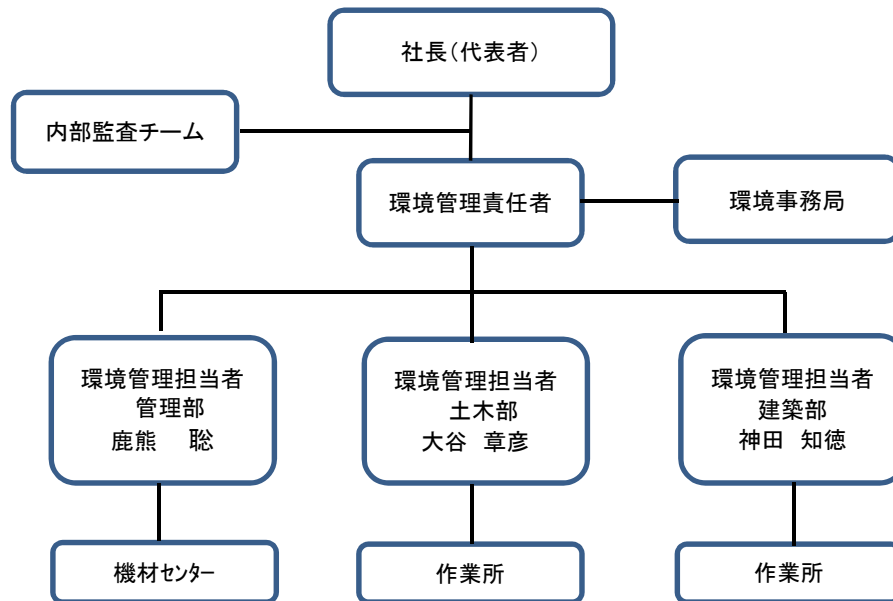
土木、大工、石、管、鋼構造物、しゅんせつ、
防水、造園、建築、とび・土工、屋根、
タイル・れんが・ブロック、舗装、塗装、
内装仕上、水道施設工事業

5) 事業規模

売上高	55期	3,683百万円	(2013年6月1日~2014年5月31日)
	56期	3,599百万円	(2014年6月1日~2015年5月31日)
	57期	3,709百万円	(2015年6月1日~2016年5月31日)

従業員数	84人
本社床面積	1132.1m ²
機材以外床面積	5963.6m ²

3. 活動組織



責任者	役割・責任・権限
社長（代表者）	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 環境管理責任者・部門担当者を任命 環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 環境目標・環境活動計画書を承認 代表者による全体の評価と見直しを実施 環境活動レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理、 環境関連法規等の取りまとめ票を承認 環境目標・環境活動計画書を確認 環境活動の取組結果を代表者へ報告・ 環境活動レポートの確認 環境事務局の設立、担当者の任命
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 環境目標、環境活動計画書原案の作成 環境活動の実績集計 環境関連法規等取りまとめ表の作成 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 環境活動レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
環境管理担当者 (部門長)	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境経営システムの計画・実施 自部門における環境方針の周知 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 特定された項目の手順書作成及び運用管理 自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成 教育、訓練を実施、記録の作成 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施 環境活動の内部コミュニケーションの実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 環境活動の具体策の提案、活動状況の定期報告 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

4. 環境目標

2014年(56期)の実績値を基準値とし、2015年以降の3年間の目標値、環境活動計画及び具体的施策を下表の通り策定した。

	目標値	活動計画・施策
省エネルギー化	電力の削減 基準年度実績 2014 197,089 kWh 102,092 kg-CO2 使用する二酸化炭素排出係数; 0.518 2015 年度目標 基準年度比 99.5% 削減率 -0.5% 目標値 101,582 kg-CO2 ※設定目標値については年度ごとの売上高比により変動有 2016 年度目標 前年比-0.5% 99.0% 2017 年度目標 前年比-0.5% 98.5%	1. 空調温度の適正化・熱の出入りの調整 2. 時間帯消灯・機器電源OFF(昼休憩・外出時等) 3. 時間帯消灯・機器電源OFF(休日・夜間) 4. 効率化による残業・休日出勤削減 5. 空間利用方法の再検討 6. 省電力設定、機器の導入追加検討 7. 社内ルールの設定(制限・約束) 中期計画 1. 前年手段の継続・改善・検討事項の実施 2. 社員行動の不良部の改善 3. 残業・休日出勤の削減 4. 更なる向上の為の手順改善 5. 社内ルールの遵守
	燃料の削減 基準年度実績 2014 ガソリン 93,604 ℓ 軽油 112,128 ℓ 灯油 32,869 ℓ 年 582,991 Kg-CO2 2015 年度目標 基準年度比 99.5% 削減率 -0.5% 目標値 580,076 Kg-CO2 ※設定目標値については年度ごとの売上高比により変動有 2016 年度目標 前年比-0.5% 99.0% 2017 年度目標 前年比-0.5% 98.5%	(通勤・移動車両) 1. エコドライブの導入 2. 日常点検の励行 3. 相乗りの推進 4. 運行経路の適正化 5. 業務外走行の禁止 (重機械) 1. アイドリング時間の短縮 2. 休憩時間のエンジストップ 3. 過剰負荷の軽減 (輸送) 1. 共積みの励行 2. 配送経路の適正化・集約化 (設備) 1. 定期点検の励行 中期計画 1. 前年手段の継続・改善 2. 重点事項の推進 (重点事項) ・エコドライブの励行 ・省エネ車両への交換の推進 ・関係会社の協力による適正機械の使用促進 ・作業手順の適正化による過剰不可の軽減 ・作業所間調整による運行経路の適正化による走行距離の短縮 ・省エネルギー型機器導入の可能性検討
	一般廃棄物の削減 基準年度実績 2014 5,892 k g 2015 年度目標 基準年度比 99.0% 削減率 -0.50% 目標値 5,863 k g ※設定目標値については年度ごとの売上高比により変動有 2016 年度目標 前年比-0.5% 98.5% 2017 年度目標 前年比-0.5% 98.0%	(全般) 1. 分別の徹底・混合廃棄物の削減 2. 分別ボックス・スペースの確保 3. 周知・徹底 (減量) 1. ペーパーレス化の促進 2. 書類の簡素化の推進 3. 両面コピーの促進 4. ミスコピー・ミス印刷の減量 中期計画 1. 前年手段の継続 2. 重点事項の推進 (重点事項) ・不良者の発見と指導 ・周知、徹底、整理整頓 ・工夫及び意識改革 ・手順の改善(社内資料) ・保管書類の削減(保管基準・保管方法)
	産業廃棄物の削減・リサイクル化 基準年度実績 2014 6,768.31 t 0.61% 2015 年度目標 基準年度比 99.5% 削減率 -0.5% 目標値 6,734.47 t ※設定目標値については年度ごとの売上高比により変動有 2016 年度目標 前年比-0.5% 99.0% 2017 年度目標 前年比-0.5% 98.5%	(全般) 1. 分別の徹底・混合廃棄物の削減 2. 分別ボックス・スペースの確保 3. 周知・徹底 (リサイクル促進) 1. 意識の高揚 2. 廃棄物に関する知識の向上 中期計画 1. 前年手段の継続 (全般) 2. 分別ボックス・スペースの必要な改善 3. 周知・徹底のための再教育 (リサイクル促進) 1. 意識の高揚のための再教育
水資源使用量削減	水道水の削減 基準年度実績 2014 1,234.0 m ³ 2015 年度目標 基準年度比 98% 削減率 -2% 目標値 1,209.32 m ³ ※設定目標値については年度ごとの売上高比により変動有 2016 年度目標 前年比-2.0% 96% 2017 年度目標 前年比-2.0% 94%	(本社) 1. 自動給水装置の水量調整 2. 節水の励行の周知・徹底のための社員教育 (作業所・機材) 1. 用水利用の促進 2. 雨水利用の促進 中期計画 1. 前年度の継続 (作業所) 1. 洗車回数の制限 2. 循環型の導入等による再利用の促進
	事務用品のグリーン購入 2015 年度目標 購入品設定品目の維持 2016 年度目標 年度実績により設定変更 2017 年度目標	1. 対象品目の調査・決定 2. 購入状況の調査 3. 調査結果の社内公表 中期計画 1. 前年手段の継続・改善 2. 決定対象品目の優先購入 3. 紙類の白色度の低品質化 4. 対象品目の優先購入継続調査
環境配慮資材購入		

5. 環境活動の取組結果と評価

1) 環境活動の取組結果

(注意：57期目標及び実績は12ヶ月経過の2016年5月20日現在値)

項目	区分	管理種別	単位	56期実績	57期目標	57期実績	対目標比率	評価
電力の削減	本社・機材	使用量	kwh	91,808	91,349	90,725	99.3%	○
		CO ₂ 換算値	kg-CO ₂	47,557	47,319	46,996		
	作業所	使用量	kwh	105,281	104,755	109,057	104.1%	×
		CO ₂ 換算値	kg-CO ₂	54,536	54,263	56,492		
	合計	CO ₂ 換算値	kg-CO ₂	102,092	101,582	103,487	101.9%	△

(評価 ◎:大きく達成 ○:-2%以内 △:+2%以内 ×:未達成)

(注意：57期目標及び実績は12ヶ月経過の2016年5月20日現在値)

項目	区分	管理種別	単位	56期実績	57期目標	57期実績	対目標比率	評価	
燃料の削減(1)	ガソリン	本社・機材	使用量	リットル	83,158	82,742	76,324	92.2%	◎
			CO ₂ 換算値	kg-CO ₂	193,064	192,098	177,199		
		作業所	使用量	リットル	10,446	10,394	13,755	132.3%	×
			CO ₂ 換算値	kg-CO ₂	24,253	24,132	31,935		
	合計	CO ₂ 換算値	kg-CO ₂	217,317	216,230	209,134	96.7%	◎	
	軽油	本社・機材	使用量	リットル	12,140	12,079	10,445	86.5%	◎
			CO ₂ 換算値	kg-CO ₂	31,859	31,700	27,410		
		作業所	使用量	リットル	99,988	99,488	108,148	108.7%	×
			CO ₂ 換算値	kg-CO ₂	262,402	261,090	283,818		
	合計	CO ₂ 換算値	kg-CO ₂	294,262	292,790	311,229	106.3%	×	
	灯油	本社・機材	使用量	リットル	2,389	2,377	2,590	109.0%	×
			CO ₂ 換算値	kg-CO ₂	5,953	5,923	6,454		
作業所		使用量	リットル	30,480	30,328	32,004	105.5%	×	
		CO ₂ 換算値	kg-CO ₂	75,954	75,574	79,752			
合計	CO ₂ 換算値	kg-CO ₂	81,907	81,498	86,206	105.8%	×		
燃料の削減(2)	LPG	本社・機材	使用量	kg	0	0	0	0.0%	/
			CO ₂ 換算値	kg-CO ₂	0	0	0		
		作業所	使用量	kg	0	0	0	0.0%	/
	CO ₂ 換算値		kg-CO ₂	0	0	0			
	合計	CO ₂ 換算値	kg-CO ₂	0	0	0	0.0%	/	
都市ガス	本社・機材	使用量	m ³	13,528	13,460	12,469	92.6%	◎	
		CO ₂ 換算値	kg-CO ₂	28,523	28,380	26,290			

(評価 ◎:大きく達成 ○:-2%以内 △:+2%以内 ×:未達成)

(注意：57期目標及び実績は12ヶ月経過の2016年5月20日現在値)

項目	区分	管理種別	単位	56期実績	57期目標	57期実績	対目標比率	評価	
CO ₂ 排出量の削減	本社・機材	CO ₂ 換算値	kg-CO ₂	306,956	305,421	284,349	93.1%	◎	
		作業所	CO ₂ 換算値	kg-CO ₂	417,145	415,059	451,997	108.9%	×
		合計	CO ₂ 換算値	kg-CO ₂	724,101	720,480	736,346	102.2%	×

(評価 ◎:大きく達成 ○:-2%以内 △:+2%以内 ×:未達成)

(注意：57期目標及び実績は12ヶ月経過の2016年5月20日現在値)

項目	区分	管理種別	単位	56期実績	57期目標	57期実績	対目標比率	評価
水使用量の削減	水道・下水	使用量	m ³	1,340	761	662	87.0%	◎
		作業所	使用量	m ³	491	448	712	158.9%
	合計	使用量	m ³	1,661	1,209	1,374	113.6%	×

(評価 ◎:大きく達成 ○:-2%以内 △:+2%以内 ×:未達成)

(注意：57期目標及び実績は12ヶ月経過の2016年5月20日現在値)

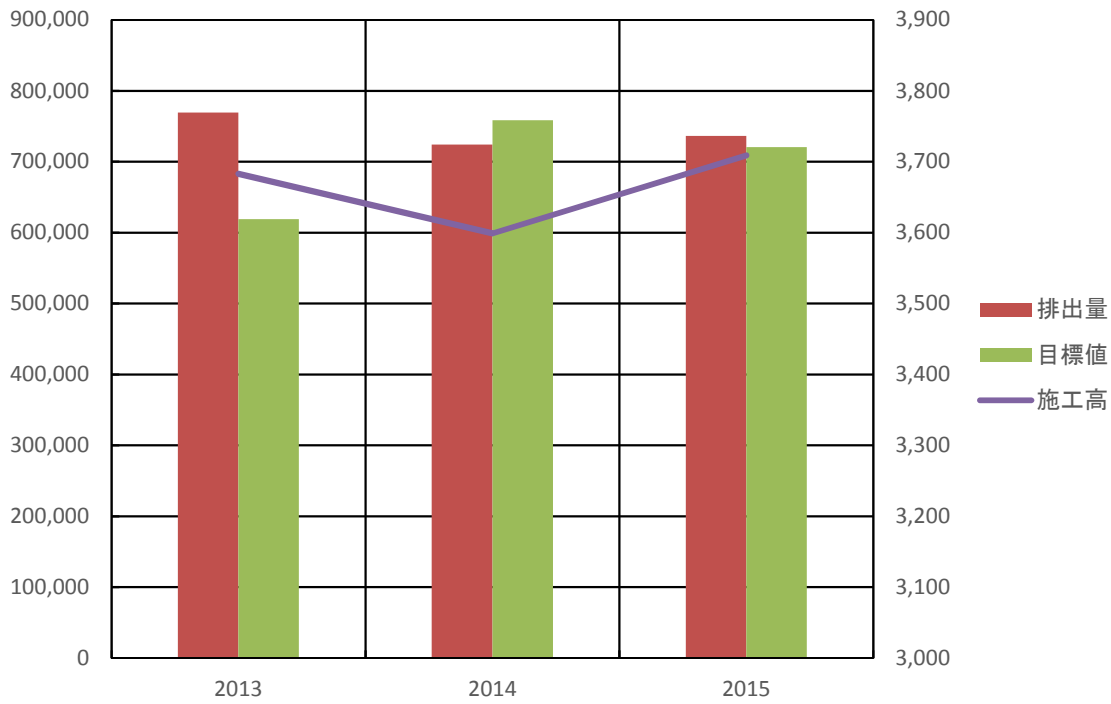
項目	区分	管理種別	単位	56期実績	57期目標	57期実績	対目標比率	評価	
廃棄物排出量の削減	一般廃棄物	ビ-用紙	使用量	kg	5,892	5,863	6,220	106.1%	×
		産業廃棄物	全体量	t	2,678	6,734	2,735	40.6%	◎
		再生不可率	%	0.79%	0.61%	1.93%	316.4%	×	

(評価 ◎:大きく達成 ○:-2%以内 △:+2%以内 ×:未達成)

CO2排出量の推移

年度	2013	2014	2015	単位
排出量	769,007	724,007	736,346	kg-CO2
目標値	618,868	758,179	720,480	kg-CO3
施工高	3,683	3,599	3,709	百万円

二酸化炭素排出量



2) 環境活動の取組結果の評価

1. 省エネルギー化 (CO₂排出量の削減)

項目	区分	数値評価	活動評価
電力	本社・機材	目標値-0.7%＝○	本社の電力使用量については、照明のLED化の施策により削減となっており、効果が確認されている。今後については、削減数値の伸びが横ばいとなる可能性がある。新たな施策や、意識の更なる向上により削減に繋げていきたい。
	作業所	目標値+4.1%＝×	作業所の電力については、上半期には削減傾向が見られたが、下期に入り目標超過となった。節電意識は浸透しているように思われる。しかし、工事完成時期の前や繁忙期に増加している。エアコンだけでなく、ヒーター等の使用が増加したことが主な要因と考える。受注内容による増分についてはやむを得ないところではあるが、冬期の仮設物等への断熱対策を検討する事により、使用量の削減が可能となる事から、検討の余地がある。
ガソリン	本社・機材	目標値-7.8%＝◎	通勤・移動が車両の主な使用目的である。車輦数が増加しているにも関わらず、減量となった。これはエコカーの導入、社員の環境配慮に対する意識向上による燃費率の向上によって大幅に改善されている。地域要件もあり移動距離の削減は困難である。相乗り通勤への努力、エコドライブへの取組等による改善が削減の方策(走行距離削減、燃費向上)と考えられる。当然、省エネ車両の更なる充実を継続していく予定である。
	作業所	目標値+32.3%＝×	作業所専用車両が増えていること、老朽化車両・機械が増えていることなどが要因と思われる。車両についてはエコドライブに加え、軽車両等燃費率のよい車種の採用、作業所機器等についてはエコタイプ仕様の選択等による削減努力を継続していきたい。
軽油	本社・機材	目標値-13.5%＝◎	輸送作業が主な使用目的である。車両は変更していない。現場への資材運搬時の積構みや、適切な運行経路の選定による削減ができていた。日々の点検整備、積載重量超過等に引き続き気を付け、削減努力を継続していく。
	作業所	目標値+8.7%＝×	受注状況、繁忙期の集中等により建設重機・小機械等の稼働が集中したことにより増加となった。機械の省エネ化については、当社だけでなく下請け業者を含め、省エネ型の機械導入については今後に向けた課題となった。暖気運転の時間短縮及びこまめなエンジンカット、使用者への教育等により削減努力、省エネ機器の導入・利用については協力を進め、引き続きお願いしていく予定である。
灯油	本社・機材	目標値+9.0%＝×	本社での使用量が若干増となっている。建築・土木の事務所稼働時間が主な原因と思われる。暖房目的が主な利用方法となるため寒冷気候の影響は大きいと思うが、業務の効率化により残業・休日出勤の削減が改善手法と思う。
	作業所	目標値+5.5%＝×	冬季のコンクリート等の冬期養生機器の使用が増加したことが要因と考えられる。受注内容により左右されることがあり、直面した時点で工夫を加え実施していくべきと思う。省エネ機器の採用について更に努力が必要である。
都市ガス	本社・機材	目標値-7.4%＝◎	冷暖房に使用している。未使用空間での冷暖房運転の削減等による改善が図られている。気候に左右された点が多いとは思いますが、設定温度の適正化や無駄な運転の削減を効率的に行う空間利用方法徹底を継続していきたい。機器類の交換時期が迫っている。省エネ機器の導入・既存機器の整備点検についても準備を進めている。

まとめ

CO₂の排出削減については結果として目標値+2.2%という結果であった。施工高が約+3.1%であったことからみればよい結果であったと考えられる。

電力については、冬期の使用量増加が問題となっている。仮設物等の断熱効果を上げる工夫・エアコンの整備・ヒーター等の温度設定についての工夫が今後も必要と考えている。

燃料関係については、エコカー等の車両交換、エコ運転の意識等による削減が進みつつある。受注工事の種類や天候、移動距離等によって大きく影響を受ける分野であり、比較することが難しい部分でもあるが、ガソリン・軽油の使用量削減が大きく影響するところである。今後についても、車両の入替、エコ運転の励行等の意識向上を更に推し進め、削減効果を向上する努力を全社を挙げて進めていきたい。重機・小機械等についても、選考時の確認・協力を進めた業界での省エネ機器・省エネ車両の導入に前向きに取り組み、削減努力を継続していく。

2. 廃棄物排出量の削減

項目	区分	数値評価	活動評価
廃棄物	一般廃棄物	(コピー用紙購入量) 目標値+6.1%＝×	仕事の手順の変更等によりペーパーレス化を目指して進めてきているが、超過傾向となっている。社内での取組だけでは限界があるところであり、ペーパーレス化による総量減量については課題がある。更に工夫していく必要がある。
	産業廃棄物	(産業廃棄物総量) 目標値-59.4%＝◎ (全産業廃棄物中の混合廃棄物の割合) 目標値0.61% →結果1.93% 目標値+316.4%＝×	削減目標を計画できない分野であるため、継続的な監視にとどめておく。 産業廃棄物の総量に対するの混合廃棄物量が増加している。各現場とも、減量に対し積極的に行っている状況は確認されているが、分別時に注視しにくい部分である可能性がある。分別時の作業者の工夫に頼る部分ともいえる分別に関する教育・訓練の見直しが必要であると考えられる。

まとめ

産業廃棄物の現状は変化していない。産業廃棄物について、総量を削減することは単品請負形態の当社では難しいものと思われるが、施工中の技術提案等により可能な限りの3R活動の推進を図り、最終処分量の削減努力は続けるべきと考える。また、確実な分別による混合型の廃棄物の削減についてもその努力を継続する予定です。

3. 水資源使用料の削減

項目	区分	数値評価	活動評価
水資源	本社・機材	目標値-13.0%＝◎	漏水箇所の修復が完了したことを受け使用量については改善している。来期この結果が削減の指標となると考えている。
	作業所	目標値+58.9%＝×	受注工事に解体工事があり、散水による使用量の増加があった。増加理由がはっきりとしており、現場での使用量削減についても節水への取組状況を確認できたことからマイナスイメージとは考えていない。現場での使用量については、水道施設の有無により左右されることからはっきりとした評価はむずかしいところである。

まとめ

漏水の発見と処置による改善をすることができた。施工の現場についても削減意識を感じる事ができた。関係者全員が削減を更に意識し、前向きに努力することを期待している。

4. グリーン購入

コピー用紙のグリーン購入化については経費の面で取り組みができない状態である。使用量の削減についての努力は継続していきたい。使用量の多い紙類と共に、日頃から購入頻度の高い物品に関して、社内グリーン購入推奨品目と位置づけ、購入時には積極的に選択している。また、現場購入品についてもグリーン購入品目を優先できるものについては、積極的に選択して購入していくよう指導している。しかしながらこれには、経費も通常商品を購入するよりも、高いことが分かっており、当社としては全量を変更していくことには、経費的に不適と判断しており、根付かせることについては時間がかかる状態である。

5. 製品への環境配慮

公共工事を除く建設物の設計に際し、できるだけ環境配慮型建設材料、工法の提案を心掛けてきた。今期もその提案率は概ね50%程度は確保できていると思う。しかし、その採用実績は顧客の判断によるところが大きく、実績としてはない状態であった。

これについては、環境製品の割高感、顧客の価格重視とを、どの様にして環境と結びつけていくのかということでもある。今後についても課題として捉え、提案を継続するよう努力したい。

6. 環境活動

本社、機材、作業所周辺（特に歩行者通行帯、植樹帯、近接施設周辺）の清掃活動を上げ実施してきた。

本社、駐車場前及び両隣に関しては総務担当者は毎日実施し、社員に関しては本社への出入り時に「気が付いたごみは必ず拾い始末する」を基本とし実施してきた。この点は良くできてきていると評価している。

範囲を広げた周辺の一斉清掃については月に2回実施の予定であったが、環境への取組意識の向上を全社的に根付かせていくために、毎週実施とした。

作業所においては地域とのコミュニケーション、社会貢献として以前から実施してきた。工期や施工状況の厳しい作業所には負担となるが、気持ちよく作業を行い、竣工時に顧客、地元から感謝されていることから、この環境活動は継続する予定です。

6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

1. 環境関連法規の遵守状況

法規制等の名称	該当事項	要求事項	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	一般廃棄物及び産業廃棄物の管理、排出	<ul style="list-style-type: none"> ・保管場所の基準の遵守、保守（保管施設、囲い、掲示板等） ・収集運搬許可の確認 ・収集運搬者、処理業者との契約締結 ・マニフェスト発行、管理 ・マニフェスト保管（5年間） ・産廃管理計画書・報告書の提出（毎年6月） 	遵守
資源の有効な利用の促進に関する法律	建設工事における再生資源の利用促進	<ul style="list-style-type: none"> ・再生資源利用計画書・実施書の提出 	遵守
建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律	建設特定資材廃棄物の再資源化	<ul style="list-style-type: none"> ・再生資源利用計画書・実施書の提出 	遵守
騒音規制法	指定地域内の特定建設作業に伴う騒音	<ul style="list-style-type: none"> ・特定建設作業は届出 	遵守
振動規制法	指定地域内の特定建設作業に伴う振動	<ul style="list-style-type: none"> ・特定建設作業は届出 	遵守
水質汚濁防止法	油脂を含んだ水の排出	<ul style="list-style-type: none"> ・事故により油を含んだ水が公共用水域に排出された場合は応急処置を施すと共に県知事へ届出 	遵守
特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律及び政省令	特定自動車の使用制限規制	<ul style="list-style-type: none"> ・規制適合車の使用 	遵守
消防法 消防法施行令 消防法施工規則	油類の流出防止	<ul style="list-style-type: none"> ・保管場所の基準の遵守、保守（保管施設、囲い、掲示板等） 	遵守

2. 環境関連訴訟等の有無

環境関連訴訟等について、この5年発生していません。

7. 代表者の評価と見直し

当社がエコアクション21の環境活動への取組宣言を開始して5年が経過しました。同認証を取得して2年が経過し、2月には認証継続審査に合格し2期目がスタートしようとしています。

我が国の地球温暖化対策を総合的かつ計画的に推進する為の計画である「地球温暖化対策計画」が5月13日に閣議決定され、エコアクション21が中小企業向けの環境施策として位置付けられ、今まで以上に積極的に取組んでいくべき事となりました。

当社のエコアクション21の取組についても、社員の意識・意欲が年々向上しつつあり、ごく自然な形で環境活動を実施できている方も見受けられるようになってきました。また、現場での積極的な取組も一部には実施されている為、環境活動への取組が当たり前の事として定着して来ていることが感じられました。

低炭素社会の実現・資源循環の3R活動・自然共生社会の構築という、3つの指針を総合的に取組み、地球の生態系と共生し持続可能な社会実現へと取組む企業を目指し、更なる向上心を持って全社一丸となり、今後についても取組んでいきます。

(57期の結果について)

CO2排出量57期=736.346kg-CO2(施工高3709百万円)前年比+2.2%となりました。

電力関係：本社の照明関係設備のLED化等、ハード面での施策完了により一定の成果が見られているが、現場についてはまだまだ改善の余地があると思います。今後についてもより一層の努力と、工夫による削減を目指したい。

燃料関係：エコカーや燃料効率の良い車両への交換による削減の効果が見られている。ガソリンについては使用総量前年(56期)比-3.3%と大きく削減できている。軽油・灯油の使用量削減についてより効果的な削減計画を来期以降の取組の重点として捉えていきたい。

廃棄物関係：一般廃棄物及び産業廃棄物の総量については、受注工事内容により数値の影響が大きく比較が難しいところです。分別処分については、社員一人一人の意識について年々向上が見られている。課題としては混合廃棄物の総量に対する比率が上がっており、分別処分についての難しさを感じている。

水資源関係：目標を達成することが出来ている。施設の老朽化に伴い普段の点検・整備の重要性が顕著に表れるところです。昨年漏水箇所を修繕したことによって、今期については非常に良好な成果が見られている。各現場についても無駄をなくす努力が見られている。来期についても、施設の監視・点検を実施して無駄をなくすための努力をしていく。

全般的に意識・意欲について良好であり、本社・機材センターでの削減努力の成績は良い結果であった、しかし来期については数値的な伸び悩みが懸念される結果となった。また、現場については、受注要件により比較検討の難しい処がある事、効果的な施策を見いだせていない部分等、前年に続き課題を残す結果となっている。来期の施策、手法の改善、創意工夫による削減効果の向上を期待している。

先にも記したとおり、エコアクション21の認証が国家施策の一環に位置付けられました。運用効果を上げていく事により、我々の実施する取組の一つ一つが地球温暖化防止に繋がっていきます。現在までに得た経験をもとに、来期も工夫と改善を繰り返し、向上心を持って活動していきます。

平成28年5月20日

株式会社 鹿熊組

代表取締役社長 鹿熊 厚
